

エクアドル産「田辺農園バナナ」国内販売 20 周年を迎え、パッケージをリニューアル ～「いつでもおいしい」農園主による直筆メッセージで、想いをダイレクトに～

ANA フーズ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:田中久敬)は、今年、南米エクアドルから独占輸入販売している高級バナナブランド「田辺農園バナナ」の国内販売 20 周年を迎え、パッケージデザインをリニューアルします。5 月中旬より一部先行スタートし、6 月内に切替完了予定です。現在、「田辺農園バナナ」は当社を代表するブランドに成長していますが、消費者や販売業者の皆様には「こだわり」と「おいしさ」がより伝わるよう、20 周年という節目の年にパッケージデザインをリニューアルし、さらに 2025 年下期には 20 周年を記念した販促キャンペーンも予定しています。

■ 田辺農園と ANA フーズの出会い

田辺農園は創業当時からエクアドルのバナナ輸出団体に所属していましたが、当時は出荷後に他のエクアドル産バナナと一緒に輸出されていました。自然環境に配慮して大切に育てた高品質バナナへの「こだわり」を直接消費者に伝えたいという思いから、日本でのバナナ加工業者として実績のあった ANA フーズ(当時は前身の日本フレッシュフーズ)に声をかけたことがきっかけでした。ANA フーズは、この田辺農園のバナナ作りの「こだわり」に賛同し、「全量買い取り」を条件に 2005 年から日本国内での独占販売を開始。「田辺農園バナナ」は、収穫・検品後、エクアドルから船便で約 3～4 週間かけて日本に到着し、ANA フーズのバナナ追熟施設に運ばれ、出荷計画に沿って貯蔵、加工(熟成)し、最もおいしい状態で出荷されます。



(左) 田邊洋樹氏、(右) 田邊正裕氏

■ 新パッケージデザインに込めた想い

2020 年の国内販売 15 周年に田辺農園のロゴとパッケージデザインをリニューアルしてから、5 年が経過。緑を基調としたデザインは「田辺農園バナナ」＝「安心安全」「自然環境を大切にしたものづくり」を連想させ、田辺農園のバナナ作りの「こだわり」を正しくご理解いただけるよう販促活動を実施してきました。今後は、「こだわり」に加えて、「おいしさ」についても多くの方に認知していただけるよう訴求し、田辺農園バナナファンを増やしていきます。



① 「いつでもおいしい」農園主による直筆メッセージで、想いをダイレクトに伝える！

田辺農園と ANA フーズはオンリーワンのバナナを目指し、自信を持っておいしさを保証すべく、「いつでもおいしい」という農園主の田邊正裕氏による直筆メッセージを採用し、田辺農園の想いをダイレクトに伝えるパッケージへ変更。規格外のバナナで自家製堆肥をつくるなど、バナナの栄養で育った「田辺農園バナナ」は、バナナ本来の気品あふれる甘味とコクに加えて、爽やかな酸味が特長で、「いつでも」という言葉には、食べるシーン(朝でも昼でも夜でも)と熟度(緑・青い状態でも黄色い状態でも茶色く熟した状態でも)の両方の意味が込められています。

② アイコンで生産者の顔を出すことで、「安心感」を訴求！

これまでのパッケージでは、農園主である田邊正裕氏と弟の洋樹氏の写真を全面に出し、生産者の顔を出すことで「品質にこだわった安心できるブランド」を訴求してきました。新パッケージでは、直筆メッセージに加え、これまでのパッケージと同様に「顔が見える」商品として、わかりやすいアイコンを制作。ロゴマークは引き続き、「一本のバナナが巡ってやがて大きな花になる」ことをイメージしたデザインで、田辺農園の「バナナ循環農法」を表現しています。

■「食の安全」と「環境配慮」を両立させ、2つの国際認証を取得する田辺農園

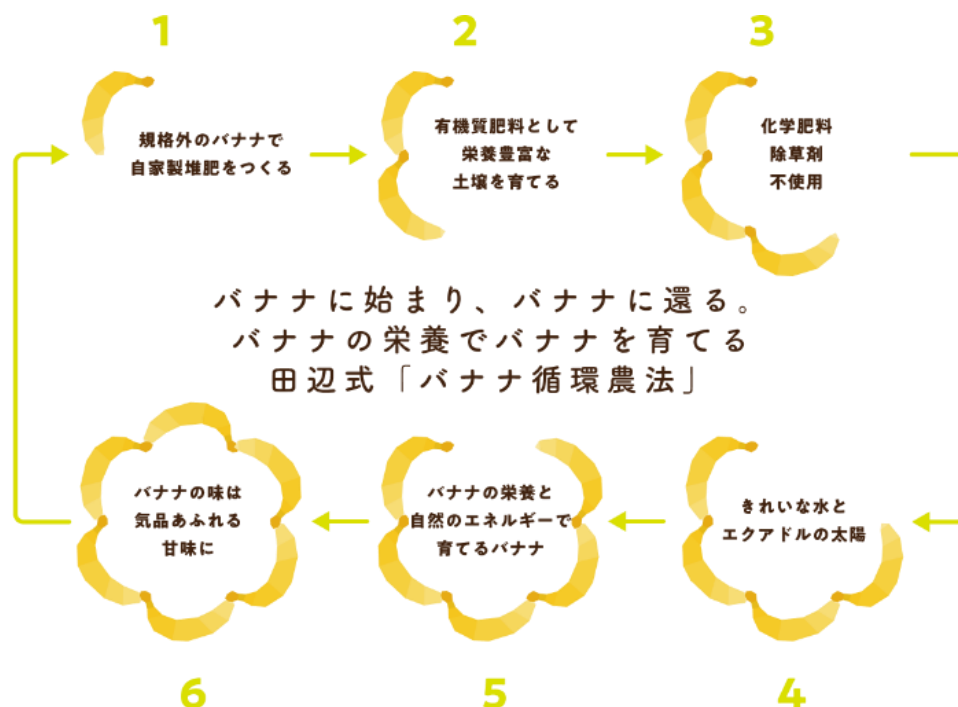
田辺農園は、世界有数のバナナ輸出国である南米エクアドルで、広島県出身の田邊正裕氏と弟の田邊洋樹氏、そして現地の約 500 名の正規雇用スタッフとともに、「田辺農園バナナ」を生産しています。赤道直下の標高約 300m の高原地帯に 1991 年、農園主 田邊正裕氏により拓かれた田辺農園では、自然の地形をそのまま生かした“バナナの森”で、規格外のバナナを廃棄せず堆肥とする土づくりや水、栽培、収穫、そして従業員の暮らしにもこだわり、大切にバナナを育てています。誰もが「安全・安心」「おいしい」と感じていただけるバナナ栽培と同時に、自然環境の保全にも十分配慮し、持続可能な農業を続けていくことを目指しており、その取り組みは、世界基準でも認められ、「レインフォレスト・アライアンス認証」および「グローバル G.A.P.」を取得しています。



田辺農園／バナナの森

[田辺農園概略]

【所在地】エクアドル サント・ドミンゴ県（赤道直下）【規模】園全体約 550 ヘクタール、うち栽培面積 約 350 ヘクタール
【従業員数】約 500 名(2024 年 9 月現在) 【生産量】約 120 万カートン(約 1.6 万トン)



[会社概要]

ANA フーズは、1955 年からバナナを扱っており、現在はバナナを中心とした生鮮食品事業、プルーンやレーズン、アーモンドやクルミなどのドライフルーツやナッツを輸入・販売している加工食品事業、日本国内の食材を海外へ発信する海外事業や食品のカタログギフトを企画・仕入・販売をしている企画食品事業など、国内外へ幅広く食品の事業を展開しています。生鮮食品事業の輸入バナナでは、エクアドル産の「田辺農園」、フィリピン産の「フレスカーナ」、ラオス産の「あまみ」の3ブランドを輸入し、全国で販売しています。

【社名】ANA フーズ株式会社 【代表者】田中久敬(たなか・ひさよし) 【創業】1955 年 8 月 9 日
【所在地】東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター TEL: 03-6852-0100(代)
【売上高】354 億円(2023 年度) 【従業員数】163 名(2024 年 3 月 31 日現在) 【株主】全日空商事株式会社
【URL】田辺農園バナナ https://www.ana-foods.co.jp/products/tanabe_farm/
ANA フーズ <https://www.ana-foods.co.jp/>

<本件に関するお問合せは下記までお願いいたします>

全日空商事株式会社 マーケティング & プロモーション室 広報担当 森川・込山 TEL:03-6735-5090